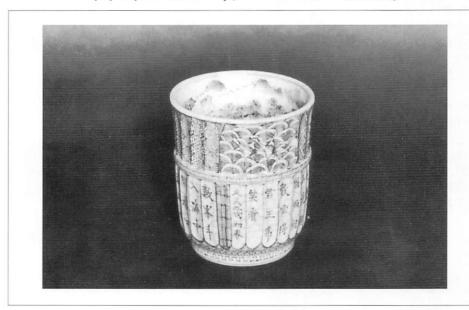
# 市立函館博物館館報サラニップ

# SARANIP

No. 38 1999.3.31

# 箱館焼に書かれた漢詩



箱館奉行は窯業を計画し、安政 4(1857)年、江戸の薬園渋江長伯の御庭焼掛をしていた石原寿三郎を担当に任命します。当時の箱館は、生活物資を全面的に本州からの移入にたよっていました。しかし、移住民の増加による物資不足や遠隔地のため移入品は高くつくという経済上の理由から、自給自足の産業を育成する必要がありました。そのひとつが窯業でした。

石原は翌安政5年,美濃岩村藩から庄屋問屋の足立岩次と配下の 為次を招きます。岩次は谷地頭に瀬戸座を設け、磁器の生産に取り 組みましたが、出来の質が悪く採算の合わない結果となり、文久元 (1861)年から茂辺地で煉瓦製造に転じ、その後帰郷しました。

漢詩茶碗底部には、「凾館ニヲイテ岩二製」という銘がみられ、胴部には左のような漢詩が書かれています。「文久二戌初春」とあるこの詩は、もともとは岩村藩儒学師範・田辺怒亭が詠んだものに、唐の李白が詠った詩を二行最後に加えたものです。

田辺怒亭が詠んだ詩は、岩次が安政6年故郷の釜戸村宝珠寺に寄進した絵馬にも記されています。絵馬は、前年の谷地頭窯の建設が無事終了したことを感謝したものです。おそらく田辺は箱館について伝え聞き、海に浮かぶ箱館、瀬戸座や銭座ができ、たくさんの人が住み、自然の恵み豊かな地に思いを馳せたのでしょう。とりわけ、函館山が雄然とそびえる地形に感嘆し、その地の利をもって外国勢力にゆるぎない箱館があるのだと詠っています。

李白の詩は、本来、楊貴妃とその夫李隆基が互いに幸福に暮らす 様子を表現しているのですが、幕末の箱館ではどのような人々を比 喩しているのでしょうか。

霜村 紀子

## 平成10年度特別企画展

# 昭和30年代の函館

報告



今年度の特別企画展は、本館を会場に 平成10年6月2日~8月23日まで72日間 開催しました。内容的には当館では初め て歴史的に新しい時代をテーマとしたも ので、戦後の復興期から高度経済成長の 時代へと大きく転換していく30年代にス ポットを当て、この時代が函館市民のよ 活にどのような変化をもたらしたかなど 4つのコーナーに分け、当時の電化製品 や生活用具を中心とした資料を展示紹介 しました。

展示に当たり、資料を1年前から函館市民の方々に呼び掛け収集しましたが、何分「消費は美徳」という時代の生活用具ですのでなかなか揃いません。このため、北海道開拓記念館、小樽市博物館、室蘭市民俗資料館の所蔵資料を借用して当時をなんとか表現することができたと思います。



昭和30年代の茶の間を再現した展示風景





さて、今回の展覧会は期間中7,604人という多くの方々にご覧いただきました。親子連れやお孫さん連れのお爺ちゃんなど、楽しそうに歓声をあげながら観覧している姿が多く見られました。また、何度も来館された方も多かったようです。この中で強く印象に残った、30代の女性からいただいた観覧アンケートをご紹介しましょう。

「なんか、実家に帰った様な気持ちでなつかしく思いました。私の実家はあの5年前の奥尻南西沖地震で家族全員亡くなり、私一人になり、今ここに来て、両親、兄弟との家族の昔の会話が聞こえてきました。ありがとうございました。これをはげみに今の家族を大事にしたいと思います。」

このアンケートを会期終了後に見た時,様々な人達が色々な思いを馳せてこの展覧会を観覧していただいたと実感,担当者として一気に開催の苦労が吹き飛んだ瞬間でした。

尾崎 渉

上:家庭電化時代のはじまり!

当時のテレビに見入る子どもたち

下:展示解説セミナーでなつかしの生活用具

の使い方を説明する様子



# 北前船と蝦夷地

報告

今年度, 五稜郭分館を会場に「北前船と蝦夷地-和人とアイヌのくらし-」というテーマで特別展を開催しました。7月22日から9月13日の期間中20,579人の方々に観覧していただきました。

展示内容は8つのコーナーを設け、前半部は松前三 湊と呼ばれた松前・江差・箱館のまちの様子と北前船 に関する資料を展示しました。後半部では和人の経済 活動の影響を受け変質していくアイヌ社会について展 示しました。

前半のコーナーでは、箱館周辺を描いた「東蝦夷地 屏風」・「松前屏風」・「江差屏風」の3点を壁一面 に展示し、観覧者の方々の目を引きつけていました。 北前船のコーナーでは、北前船を新造した際に神社に 奉納されたと伝えられる模型を中心に、船で使用され た船箪笥や弁当箱・船額といった資料を展示しました。

後半のコーナーでは、「アイヌ絵」と呼ばれる和人によって描かれたアイヌ社会に関する絵画資料を中心に、アイヌ社会で使用された道具類も展示しました。なかでもアイヌが交易によって得た「蝦夷錦」と呼ばれる中国製の織物や「タマサイ」と呼ばれるガラス玉

平成10年度企画展新収蔵資料展から資料紹介

# ㈱ニチロと北洋漁業

平成9年度に当館が受け入れた新たな収蔵資料は, 452件2,523点を数え、民俗、歴史、美術、自然科学等 の多分野にわたっています。

今回の新収蔵資料の中で、とりわけ郷土函館ゆかりの169件388点におよぶニチロ、北洋漁業関係資料が一際注目されます。

これらの資料は、往時の北洋漁業を偲んで、1981年 (昭和56) より1998年 (平成10) 3月31日まで、株式 会社ニチロ函館事務所ニチロ会館で展示公開されてき たものです。資料内容を大観してみますと、北洋漁業 関係写真・アルバム、北洋漁業関係書類・文書、操業 計器類, 社服·作業服, 食器類, 漁場沿岸地図, 漁船 ・漁具模型、旗、漁場免状、カニ標本、製品見本等々 があげられ、どれも北洋漁業の歴史を物語る貴重な資 料となっています。中でも、「宝寿丸奉納旗」は、函 館を北洋漁業基地としてスタートした日魯漁業株式会 社のカムチャツカ進出を象徴するもので、1907年(明 治40) に、はじめて新潟港よりカムチャツカに出港し た日魯漁業株式会社所有帆船「宝寿丸」の船旗と伝え られるものです。また、大正期におけるデンビー商会 をはじめとする西カムチャツカ漁工場風景, 操業風景 等写真資料は, 北洋漁業初期の日魯漁業関連記録資料 となっています。北洋海域における対外関係資料とし ては,1935年(昭和10)の「極東海上漁区貸下げ条件」,

で作られた首飾りなどを見た観覧者の方々は、アイヌ社会の広範な交易活動に驚いているようでした。

平成9年に「アイヌ文化振興法」が制定されました。 今回の特別展では、このような法律が制定されること となった歴史的背景について考えてみました。

保科 智治



はなやかな屏風に見入る観覧者

「極東蟹漁区貸下げ条件」等のソビエト連邦共和国との取り交わし文書が含まれており、1930年代の漁業外交の一端を垣間見ることができます。

長谷部 一弘



長さ3 m80cmの大旗「宝寿丸奉納旗」

## 平成10年度博物館講座報告 新講座紹介

## 自然がいっぱい! もりだくさん!

## 初歩の野鳥観察 五稜郭公園の自然を探ろう わくわく生き物講座

「初歩の野鳥観察」は、5月23日に開催しました。この日は第4土曜日でしたが、早朝7時という早い時間であったこともあり、参加者が10名と少ない結果になりました。それでも、参加者は博物館本館から函館山の一つである鞍掛山までの往復約2kmの行程を歩く間に、出現する野鳥、さらに植物も、また鞍掛山から見る風景もそれぞれ堪能していたようです。

「五稜郭公園の自然を探ろうーどんな植物がはえているか調べてみようー」は、6月21日と28日の2日間にわたり開催しました。最初は19名の参加者とともに、公園内を散策しながら、公園内に生育する植物についておおまかに把握した後、あとはグループごとに各地点に分かれ、花が咲いているか、否かなどの生育状況

や分布状況を記録シートに記入していく作業に移りま した。参加者は狭い範囲の中でも,数多くの植物が生 育していることを再認識したようです。

最後に、「わくわく生き物講座」では、「食べものとうんこ」という名のテキストを使い、13名の参加を得て、生態系における生き物の役割、つまり、生き物が自然界でどのような役割をもってつながっているかについて7月18日と19日の2日連続で学習しました。

参加したお母さんの中には「子どもには難しかった のでは。」といって心配しておられましたが、子供た ちは最後までテキストを読み進み、一様に「おもしろ かった」と言ってくれたのが印象的でした。

佐藤 理夫



五稜郭公園の自然を探ろう 公園内の植物について 説明を聞く参加者たち

# 歴史が知りたい! 五稜郭探検隊

夏休みの小学生向け新講座「五稜郭探検隊」は、予想を超える応募者で思わぬ好評を得ました。講座の内容は「博物館資料に触れてみよう」という講座と「五稜郭の歴史を探ろう」という講座を合わせたものです。

「博物館資料に触れてみよう」は平成7年から9年にかけて行いました。内容は年によって多少変えましたが、五稜郭から出土した遺物や市内から出土した砲弾をクイズ形式で紹介し、五稜郭や箱館戦争の話をするといったものでした。「五稜郭の歴史を探ろう」は平成6年に行った講座で、五稜郭の中を歩いて説明し五稜郭や奉行所の図面を配布し、各自に持たせやはりクイズ形式で自分のいる場所を答えてもらいその場に

おいて説明をするというものでした。

いずれの講座も参加者数は定数20名を予定していましたが、その数字に達することはなく、多くて12、3人、少ないときには4人という状況でした。このような状況を改善するべく今回行ったのが、上記二つの講座を合わせて行うとともに、名称をもっと親しみやすいものへとするということでした。「五稜郭探検隊」という何をするのか分からないが、何となくわくわくするような名称が功を奏してか、定員を超える応募がありました。来年も今年とは違った探検を行いたいと思います。

保科 智治

## 平成10年度博物館講座報告



ラリー出発前に説明を受ける親子



七飯町・桜町7遺跡を見学する様子

# 縄文時代にタイムスリップ

# 遺跡を巡る旅バスツアー

平成10年8月7日9時,函館市役所集合。あいにくの台風一過の空模様の中,参加者35名を乗せたバスツアーは一路,今をときめく道南地方の「南茅部町大船 C遺跡」,「七飯町桜町7遺跡,桜町遺跡」巡りの旅に出発しました。期待一杯の車中での「函館空港遺跡と縄文人の青函交流」ビデオ上映の勢いよろと匹敵を退入の縄文集落といわれる三内丸山遺跡に匹敵を入り最大の縄文集落といわれる三内丸山遺跡に匹敵を大船 C遺跡では、南茅部町教育委員会文化財調力の説明により現状保存された縄文時代との表別では、登上、とりおけ発掘作業員の方と参加者とのできました。とりわけ発掘作業員の方とをかいました。とりおりました。

また、桜町7遺跡、桜町遺跡では、七飯町教育委員会調査スタッフの説明により縄文時代前期、中期、後期、続縄文時代の竪穴式住居、貯蔵穴、落とし穴、墓などを見学することができましたが、中でも火山灰を挟んだ西暦10世紀から17世紀中頃までの間の農耕跡と思われる極めて珍しい畝状遺構を観ることができたことは、遥か縄文時代から連綿と営まれ続けてきた七飯町の歴史の重みを実感するのに絶好の機会でした。

長谷部 一弘

# 文化の日 見たい! 知りたい! ミュージアム・ラリー

博物館講座初の試みとして、11月3日文化の日に開催した「ミュージアム・ラリー」は、この日に臨時開館している博物館や道立函館美術館をはじめ、北方民族資料館など財団各展示施設をより身近に知ってもらうことを目的に、全8館の展示を見てクイズに答えながらタイムを競う、いわば博物館版ウォークラリーです。

全部で28名10組の親子が参加,1日乗車券とパスポートを片手に,最初の出発点の五稜郭分館からスタート,五稜郭タワー展示館など五稜郭地区のポイントを見てから各チーム毎に西部地区へと向かっていきました。規定時間を195分に設定しており,第1位に輝いたチームはこの時間どおりにゴールの博物館本館へ到着しました。

開催にあたり、運営・管理がそれぞれに違う各館には、入館料を免除してもらうなど多大なご協力をいただき、おかげで参加者の方々も目的を持って楽しく観覧できたと好評でした。

各館の担当者にも評判となったこの講座ですが、来 年度は違う形で開催できればと考えております。

尾崎 渉

#### 平成10年度博物館講座開催表

#### 単 講 座

No.	講 座 名	開催期日	参加数
1	春の星座観測	5月22日(金)	19
2	函館山自然観察「初歩の野鳥観察」	5月23日(土)	10
3	SPレコードを聴こう	6月7日(日)	22
4	展示解説セミナー「昭和30年代の函館」	6月14日(日)	20
5	体験学習「土器の拓本をとろう」	6月20日(土)	9
6	五稜郭公園の自然を調べよう(2回連続)	6月21日(日)・28日(日)	19
7	夏の星座と七夕	6月26日(金)	26
8	初歩の天体観測「夏の星座観測」	7月10日(金)	. 15
9	わくわく生き物講座(2回連続)	7月18日(土)・19日(日)	13
10	体験学習「土器を作ってみよう」(2回連続)	7月25日(土)・8月1日(土)	35
11	夏休み自由研究「色を作って絵を描こう」	7月26日(日)	15
12	親子自然体験教室(宿泊キャンプ1泊2日)	7月29日(水)~30日(木)	17
13	夏休み自由研究「鉄道の仕組みとJR見学会」	7月31日(金)	51
14	展示解説セミナー「北前船と蝦夷地」	8月2日(日)	17
15	遺跡を巡る旅(バスツアー)	8月7日(金)	35
16	夏休み自由研究「五稜郭探検隊」	8月14日(金)	16
17	宿泊体験学習「おもしろ博物館」(1泊2日)	9月12日(土)~13日(日)	中止
18	植物画を描こう(3回連続講座)	9月13日(日)・26日(土)・27日(日)	16
19	秋の星座と中秋の名月	10月2日(金)	17
20	函館・ミュージアムラリー	11月3日(火)「文化の日」	28
21	ひな人形をつくろう	2月21日(日)	16

#### ワークショップ(通年講座)

No.	詩	座	名	開催期日	参加数
1	星空探検隊			10年4月10日(金)~11年3月12日(金)	30
2	自然観察入門			10年4月12日(日)~11年3月14日(日)	40

## 新館に向けて はじめの一歩②

平成10年3月、当館の移築整備に向けた準備として、 他館の状況を調査するため、現在、移築整備(平成13 年新館完成予定)を進めている大阪市立博物館、参加 型博物館を目指して平成8年に新設された滋賀県立琵 琶湖博物館, 木造漁船や漁労用具など多くの国指定重 要有形民俗文化財を保存管理している海の博物館(三 重県鳥羽市) に伺いました。

各館で種々お話をお聞きし、私たちは新しい博物館

で「何をどのようにしたいのか」など、現場としての 考え方を明確に持つことの大切さを、改めて感じたと ころです。また、琵琶湖博物館で実践した、建物はな くても実施出来るもの(研究・交流・サービス活動・ 資料収集など)は、開館前からでも活動する「準備室 なれど博物館」の姿勢は、是非、当館の移築整備の準 備にも活かしたいと思っています。

> 寺本 忠

1件1点

【札幌市·石橋 善光氏寄贈】

## 平成10年度新収蔵資料紹介

#### ○寄贈資料 ・我も空へいざ(岡本一平画) 他 27件27点 【鎌倉市・佐々木 紀一氏寄贈】 ・函館五勝はがき 他 2件3点 【函館市·高市 道也氏寄贈】 ·北洋博記念文鎮 1件1点 【函館市・桜井 健治氏寄贈】 ・レコード 1件6点 【函館市・吉野 博氏寄贈】 ・グラフNHK 他 3件119点 【函館市·川嶋 直子氏寄贈】 ・べこ餅用型 4件6点 【函館市·佐藤 和夫氏寄贈】 ・魔法瓶 他 6件9点 【函館市·石川 朝雄氏寄贈】 ・はいならし (灰均) 2件3点 【函館市·高原 哲氏寄贈】 ・スキー (子供用) 他 8件8点 【函館市·菅野 貞夫氏寄贈】 • 蚊帳 他 4件4点 【函館市·相馬 定雄氏寄贈】 ・ 絎台 (クケダイ) 7件8点 【函館市・小林 清氏寄贈】 ・コリントゲーム 29件300点 【函館市·佐藤 緑氏寄贈】 ·制服 (郵政省) 14件15点 【函館市・種谷 ツル氏寄贈】 ・張り板 1件2点 【函館市・伊藤 博子氏寄贈】 映画ポスター 1件4点 【函館市·渡辺 道子氏寄贈】

## 郷土資料館休館のお知らせ

郷土資料館は、北海道指定有形文化財旧金森洋物店 としての建物復元工事のため、平成12年3月31日まで 休館いたします。問い合わせ等は下記で対応しており ます。 連絡先 TEL.0138-23-3095

<ul><li>写真カード(報國第二二○九號函</li></ul>	i館號) 他	2件3点
	【函館市・瀬川	潔氏寄贈】
・ひな人形		1 式44点
	【函館市・菅原	尋美氏寄贈】
· 教科書 (昭和19年 初等科國史 上)	他	73件686点
	【函館市・高橋	能子氏寄贈】
・カメラ 他		37件40点
	【函館市・大滝	広吉氏寄贈】
・エゾシカの頭骨(角付) 他		1件1点
	【函館市・西谷	卓也氏寄贈】
・コンパス		1件1点
	【函館市・平賀	道雄氏寄贈】
・スキーシール 他		2件2点
	【函館市・眞壁	酉明氏寄贈】
・のれん (サッポロシトロン) 他	l.	4件5点
	【函館市・本家	和子氏寄贈】
・ラジオ (ドイツ製) 他		8件10点
	函館市・金橋 喜	「三郎氏寄贈】
・考古・民族資料		11,781件
	【札幌市・児玉	マリ氏寄贈】

#### ○購入資料

· 函館全景写真

C1177 12611	
・鶏肉ケレー ケレー酒効能書 他	2件2点
・樺太植物誌 (全4冊)	1件1点
· 亜墨利加一条写(複製本・活字本1組)	1件1点
· 断髪 (岡本一平画)	1件1点
<ul><li>五稜郭奮戦之図(浮世絵・三枚続)</li></ul>	1件1点
· 長輪線建設概要/北海道鉄道線路図	2件2点
・農夫とかえる (岡本一平画)	1件1点
○安贈図書	

#### )寄贈図書

· 世界名作全集 ( 講談 計版 ) 1 件43冊 【東京都・梁川 美恵子氏、斎藤ルリ子氏寄贈】 (平成11年2月18日現在)

## 職員の異動紹介

渡辺 文子 郷土資料館臨時職員採用

-誌名SARANIP(サラニップ)について-アイヌ語:シナの樹皮で編んだ袋。 博物館情報や研究成果などをSARANIPに 入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっ ていくようにと命名したものです。



SARANIPーサラニップーNo.38 1999.3.31発行 編集·発行 市立函館博物館

〒040-0044

函館市青柳町17-1(函館公園内) TEL 0138-23-5480 FAX 0138-23-0831